

# 国語科学習指導案

府中町立府中小学校 宮本 果奈

1 日 時 令和5年1月19日(木) 第1校時

2 学 年 第2学年1組 32名

3 単元名 自分にあったおにごっこを見つけよう 「おにごっこ」

(光村図書「こくご二下 赤とんぼ」)

## 4 単元について

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語編第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」(1)ウの指導事項「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」「C読むこと」(1)オの指導事項「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ力」を育成するために、文章の内容について児童一人一人が何らかの思いをもつことができるように、既にもっている知識や実際の経験とを結び付けながら、想像を広げたり理解を深めたりすることが必要である。

本単元の教材文である「おにごっこ」は、「はじめ・中・終わり」の文章構成になっている。本教材文の題材である「おにごっこ」は誰もが遊んだことのある、児童にとって身近な遊びであるため、文章の内容と自分の体験とを結び付けながら読むことに適している。また、教材文に紹介されている遊び方を学習過程で実際に児童が試してみることで、体験と結び付けて文章の内容を解釈し、理解を深めやすいと考える。本教材文は、「はじめ」には「問い」、「中」に「答えとなる事例」、「終わり」に、「筆者の考え」が書かれている尾括型の構成を有した説明的な文章である。「はじめ」には、「どのような遊び方があるのか」「なぜそのような遊び方をするのか」の二つの問いがあり、問いに沿って読むことで、それぞれの段落に書かれている重要な語や文を見付けることができる。また、児童にとって「終わり」がある説明的な文章に触れるのは初めてのことであり、「終わり」には、筆者が伝えたいことについて、読み手を説得させるために必要なことが書いてあることを理解させることで、より文章の内容についての理解を深めることができる。

### (2) 児童観

本学級の児童に、これまでの説明的な文章の読み方に関する事前アンケートを行ったところ、「自分の経験や体験と結び付けながら、文章を読んでいる」と答えた児童が100%であった。それに対して、「文章の内容について、必要な情報を落とさずに読んでいる」と答えた児童は87.1%であった。このことから、文章の中で重要になる語や文、読み手として必要な情報を適切に見付けることが課題であると考えられる。そのため、時間や事柄の順序に沿って読んで、理解した内容を友達と話したり、読んで考えた感想を文章に書いたりすることが必要であると考えられる。

### (3) 指導観

指導に当たっては、「大事な言葉に気を付けて読み、自分の考えたことや感じたことを伝えよう」という課題を設定する。児童は、「必要な情報を落とさずに読む」「自分の考えをもつ」ことに苦手意識が強い。そのため、毎時間の授業において、自分の考えとその理由を書く活動や、「遊び方がいくつあるのか」「遊び方の面白さの相違点は何か」といった比較や分類の活動を通して、児童が考えたい、読み返したいと思うような展開にしたい。

また、児童が文章の内容と自分の体験とを結び付けて考えやすいようにするためにも、体育科で教材文に紹介されているおにごっこを実際に体験したり、学級活動でみんなが楽しめるおにごっこをつくったりして、教材文に書かれている「遊びの楽しさ」について交流する。

「教材文の文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」活動において、「自分の考えをもてない」「どう表現したらよいか分からない」という2点のつまづきを見せる児童がいると予想する。そのため、自分の考えを整理できるように事前に「筆者が伝えたいこと」「筆者の考えに対して思ったこと」「体験と結び付けた理由」について、簡条書きでまとめさせておく。

## 5 単元の見目

- 言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。  
〔知識及び技能〕 (1) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。  
「学びに向かう力、人間性等」

## 6 単元の評価規準

「おにごっこ」について説明された文章と実際のおにごっこの体験を結び付けて読み、感じたことや考えたことを文章にまとめる活動を通じた指導 【言語活動例 C (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (1) ア	「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。 C (1) ウ  「読むこと」において文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 C (1) オ	進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、学習課題に沿って、感じたことや考えたことをまとめようとしている。

### <評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て	
思考・判断・表現	「おにごっこ」の教材文の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	<p>ワークシート</p> <p>スモールステップで、徐々にまとめた文章にしていく。まずは感想文を書く前に自分の考えたことの箇条書きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が伝えたいこと</li> <li>・筆者の考えに対して思ったこと</li> <li>・体験と結び付けた理由 (ワークシート)</li> <li>・「文章を上手く書くこと」よりも「自分の考えを書くこと」に価値をもたせる。</li> <li>・思ったことや考えたことが言語化できない場合には、これまでのおにごっこ遊びの具体的な場面を想起させながら、文章の内容について引き出す。必要に応じて、教師がメモを取ったり、どのように児童から引き出した内容を書けばよいか個別に声をかけたりする。</li> </ul>	
	筆者が伝えたいことで分かったこと		わたしは、この文章を読んで、逃げてはいけないところを決めることで、おにをする人はつかまえやすくなって、おにごっこが楽しくなることが分かりました。
	筆者の考えに対して思ったこと		わたしは、「おにごっこ」は、みんなが楽しむことができる遊びであると思いました。
	体験と結び付けた理由	<p>どうしてかという、わたしも学級レクリエーションでおにごっこをした時に逃げる範囲が広すぎて逃げる人にタッチできませんでした。しかし、逃げる場所を狭くしたら、タッチすることができて楽しくなったからです。</p> <p>これからも、みんなが楽しくなるように遊び方を工夫したいです。</p>	

7 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てる。</li> <li>「おにごっこ」の遊びについて知っていることや思っていることを話し合う。</li> </ul>				
二	2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いを見付ける。</li> <li>問い1 に対しての答えを文章から見付け、文章の内容の大体を捉える。</li> </ul>		○		[思考・判断・表現] C (1) ウ <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な文である「問い」と「答え」を選び出している。
		(体育科) <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文に紹介されているおにごっこを体験する。</li> </ul>				
	4 本時 5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>範囲を決めるおにごっこの遊び方の面白さについて比較する。</li> <li>鬼が増える遊び方の面白さについて比較をする。</li> <li>「おわり」で筆者が読者に伝えたいことは何か話し合う。</li> </ul>	○			[知識・技能] (1) ア <u>ワークシート</u> ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。
		(学活) <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで考えたおにごっこを決める。</li> </ul> (体育科) <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで考えたおにごっこを体験する。</li> </ul>				
三	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を書く。</li> </ul>		○		[思考・判断・表現] C (1) オ <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。</li> </ul>			○	[主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・進んで、文章の内容と自分の体験を結び付けて考え、学習課題に沿って、感じたことや考えたことをまとめようとしている。

## 8 本時の学習

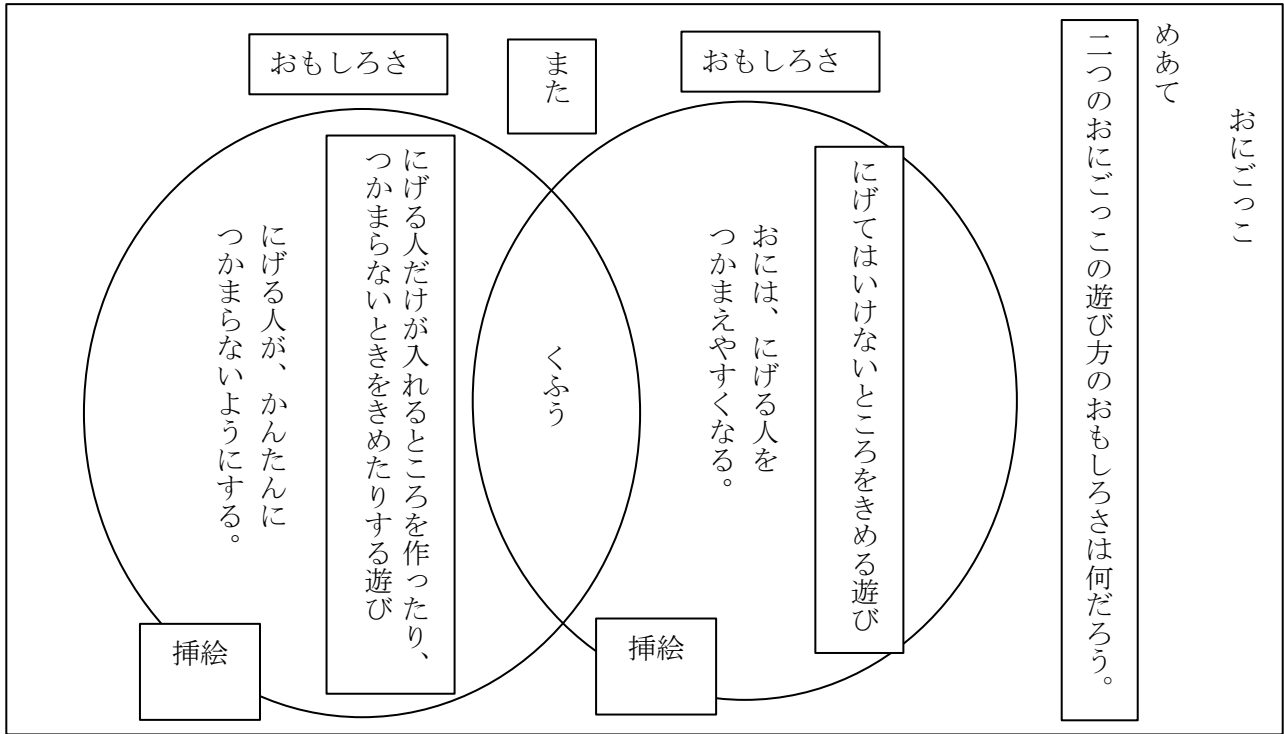
### (1) 本時の目標

教材文に書かれている内容を捉え、文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。

### (2) 学習の展開(4/8)

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
1. 前時の振り返りをする。  2. 本時のめあてを確認する。	○体育科でした「範囲を決めるおにごっこ」の遊び方を動画で振り返り、なぜそのような遊び方をするのかについて学習課題をもてるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             二つのおにごっこの遊び方のおもしろさは何だろう。           </div>		
3. 2～3段落を音読する。  4. 2～3段落の「範囲を決めるおにごっこ」の遊び方の面白さを考える。  5. 問い「なぜそのような遊びをするのか。」について考え、まとめる。  6. 本時の振り返りをする。	○問い「なぜそのような遊びをするのでしょうか。」に対する答えを見付けながら音読できるよう、促しておく。  ○2段落はおにの面白さ、3段落は逃げる人の面白さが書かれているため、「誰が」「どんな面白さ」「何のため」という三つの視点で考えられるようにする。 ◆「おにの面白さ」と「にげる人の面白さ」で分けて板書をすることで視覚的に捉えられるようにする。  ○接続語「また」に着目することで、きまりや工夫、おにとにげる人のどちらも楽しめることに気付けるようにする。 ○問いに対して「誰が」「どんな面白さ」「何のため」という三つの視点で答えをまとめられるようにする。  ○本時の学習と今までの経験とを比べながら思ったことを書く。	「読むこと」において、文章の中の重要な文である「問い」と「答え」を選び出し、まとめている。 [思考・判断・表現] (ワークシート)

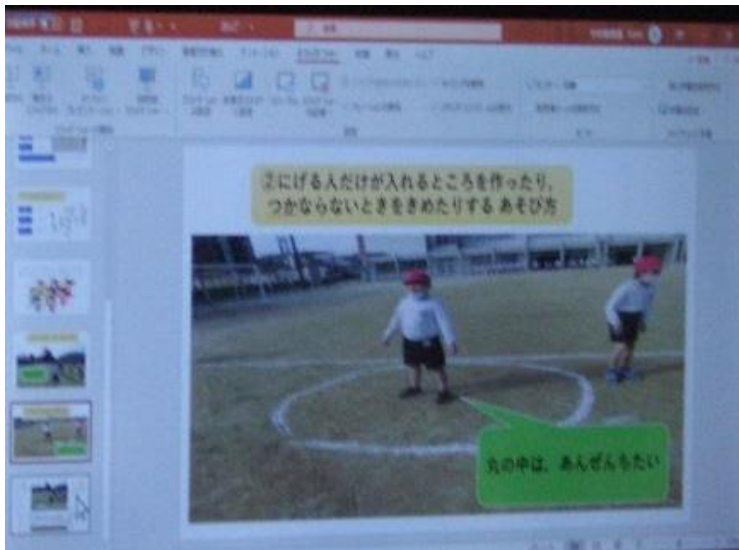
(3) 板書計画



9 指導の実際

「誰が」「ルール」「何のため」の三つの観点において、「誰が有利か」については、ほとんどの児童が見付けることができた。しかし、「どんなルールがあるか」「何のためにそのルールがあるのか」については、見付けられない児童もいた。そこで、「その遊びには、どんなおもしろさがあるのか」と切り返して発問したところ、ルールの内容やおもしろさを見付けられた。また、「ルール」「範囲」などといったおにごっこをする時に使う言葉(教材文には出てこない)を全員に伝え、児童は一気に自分が教材文から見付けたことを説明できるようになった。

おにごっこをした体験と教材文の内容とを結び付けられることが、内容理解につながると考えたので、あらかじめ、実際に自分たちが遊んでいる時の写真を提示した。すると、本文の内容を自分の体験と重ね合わせて考える児童が多くいた。そのため、「おにごっこ」に対して、自分の考えをもちやすくなり、自分の思いを発表する児童が増えた。



体験を想起し、文章の内容と結び付けることをしやすくなるように児童自身の写真をデジタル機器を用いて提示した。

学習のまとめとして、自分たちに合ったおにごっこづくりをグループで行った。本文に書かれている遊び方を自分たちで楽しめるように、工夫して変える活動を行った。自分たちで遊び方を考えられるので、「より楽しくするぞ」という意欲は高まった。しかし、本文のおにごっこのやり方を大きく変更するグループはいなかった。並行読書として、いろいろなおにごっこを紹介した本を活用することが必要であると思った。

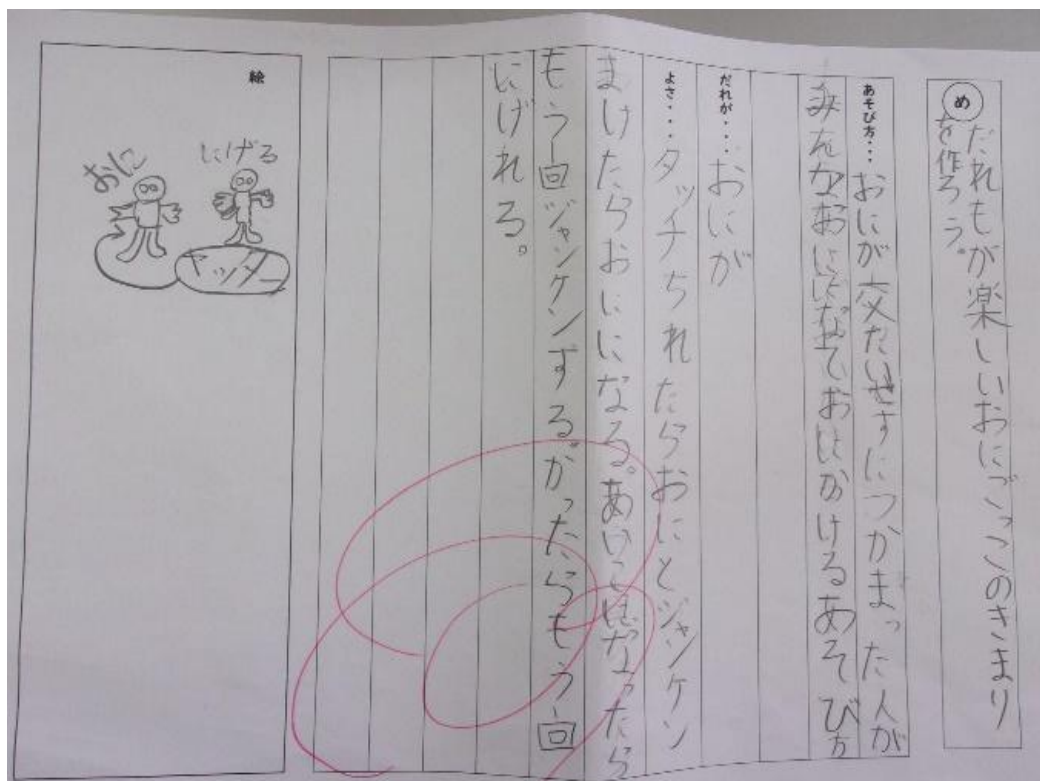
#### 〈参考〉

並行読書に用いることができそうな、おにごっこを紹介した本

- ・「年齢別アレンジつき 元気いっぱい！鬼ごっこ 50」 (著・羽崎泰男 出版社・ひかりのくに)
- ・「しらべる つたえる あそびのずかん 体いくあそび」  
(著・水戸部修治, 山中正大 出版社・あかね書房)



児童がおにごっこをする様子



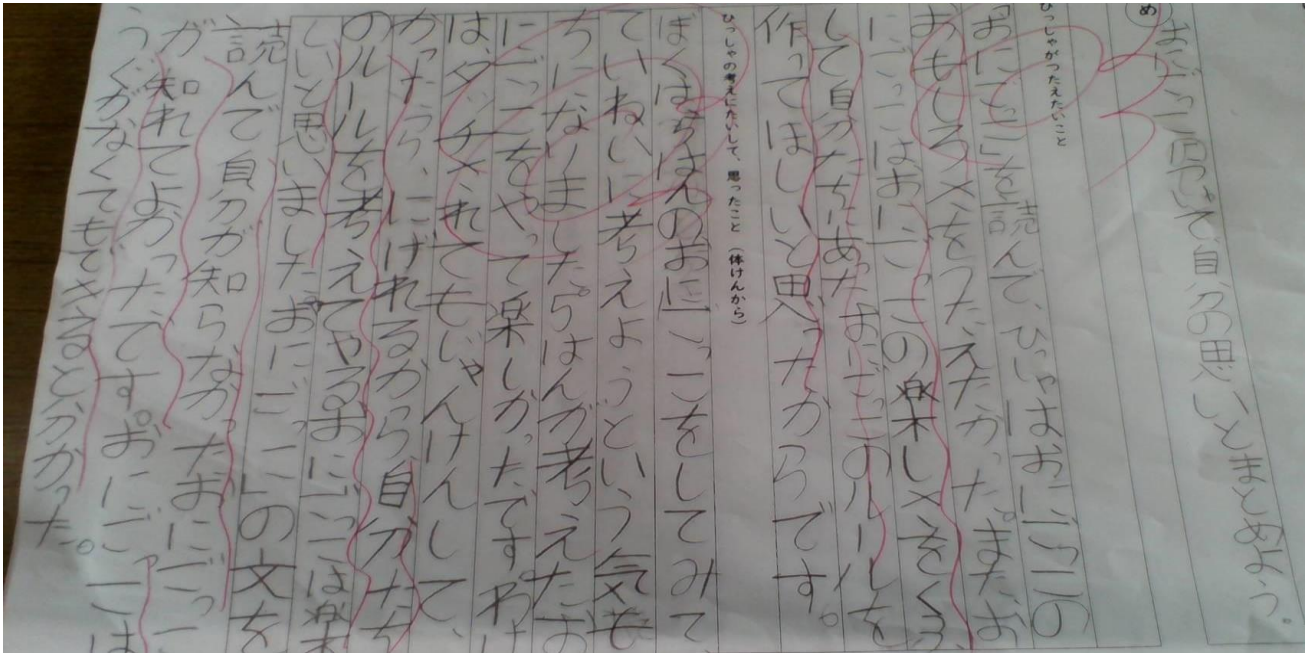
児童のワークシート



## 10 評価の実際

本単元の指導として成果は、本文と体験活動を結び付けた結果、筆者が一番伝えたかった「誰でも楽しめるおにごっこ」を児童全員が実感できたことである。今回はおにごっこを学級全体で体験した後、教材文を使っての学習を行ったが、本文の内容について理解した後、おにごっこを体験するという指導も有効ではないかと考えた。

「おにごっこ」の教材文の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことについては、約6割の児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。例えば、B評価の児童の一人は、「筆者はおにごっこのおもしろさを伝えていた。また、じぶんたちにあったおにごっこのルールを作って遊んでほしいとも伝えていた。ぼくは、自分たちでルールを考えてやるおにごっこが楽しかった。そして、本当に道具がなくてもできると分かったから、また自分たちにあったおにごっこをしたい。」とワークシートにまとめた。文章の内容と自分の新たな体験とを結び付けて文章の内容を解釈し、文章の内容に対する思いをもっていると言える。



児童のワークシート